



今年の教区目標

すべての命を守るため、
キリストと共なる
平和の道を歩みましょう。

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バート司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2020年6月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第739号 (6月号)

キリストとうまじゅん 平和ぬ道 あっちゃびら

(キリストと共なる平和の道を歩みましょう) 2020年6.23 慰霊の日によせて



カトリック那覇教区長
ウエイン・F・バート司教

那覇教区兄弟姉妹の皆さん、
今年の六月二十三日は、終戦七十五周年の節目にあたり、沖縄戦の犠牲者を追悼し平和を祈念する特別な慰霊の日です。例年行っている平和巡礼、小祿教会でのミサ、魂魄の塔での祈りの集会は、コロナウィルス感染拡大予防のために、休止となりましたが、それに代えて各小教区で同時に追悼ミサを捧げ、平和を祈念します。

教皇フランシスコは「戦争に訴えれば、それは即敗北です。戦争に打ち勝つ唯一の方法は、決して戦争しないことです」とアウシュビッツでのインタビューに応えました。沖縄の皆さんは教皇様のこの言葉の意味を誰よりも深く理解していると思います。なぜなら『非核・平和沖縄宣言』によると

「戦争は無差別に破壊し尽くす
すべての生命を
生活を
文化を

歴史を
自然を
太平洋戦争最後の地上戦があつた
この地 沖縄
町や村が焼かれ
二十万余が命を奪われた
祖先が築き上げた文化遺産は失われ
地形をも変えた
その傷あとは 今なお癒えない」
と訴えているからです。

聖ヨハネパウロ二世が「過去をふり返ることは将来に対する責任を担うことです」と言われたように、沖縄戦の実相を見据えることは戦争犠牲者に対する大きな責任だけではなく、将来を担う子孫に対する責任でもあるのです。

沖縄戦を凝視すると、今も続く世界的・根本的な尊厳の課題が見いだされます。それは強大な力を持つ者が、小さく弱い立場の者を利用するために自己決定権を奪い、利用するという事実です。その最たる姿は、あらゆる極限状態の中でその醜い姿を現します。

歴史上、最も凄惨な戦闘と言われる沖縄戦では、日米両軍が我が物顔でこの小さな島のありとあらゆるものに對し蹂躪の限りを尽くしました。

この沖縄を「捨石」とした扱いは七十五年を経てもなお、その自己決定権が無視されるという事実をもって脈々と続けられていくのです。小さき者の側に立つて、その声を聴き、その選択を尊重しない限り、真の平和は実現できません。沖縄に限らず世界のどこでも小さき島の声を無視して争いが起きています。フオー克蘭ド、ジブラルタル、香港、南沙諸島、ハワイ諸島、南洋諸島、ビキニ環礁等々、そこに住む人々のみならず、そこに存在するあらゆるものの尊厳が尊重されない限り、真の世界平和と安定が実現できないことは、時代や場所を問わず明らかなのです。

真の世界平和の実現のためには、まず小さな島々を勝手に自分のものとすることや捨石として利用することを止め、その自己決定権を尊重することによって、世界平和のとして大切に扱わなければならないのです。

そのことをキング牧師はみごとに表現しました。「真の平和とは、単に緊張がないだけではなく、そこに正義が存在することである。」と。

私たちの沖縄はその小ささのゆえに、いにしえより近隣

諸国との平和的交易に取組んできましたが、特に凄惨な沖縄戦の体験を経て、小さな島の真の平和こそが世界平和につながっていることをより強く確信し、訴え続けています。

難題に立ち向かうことは私たちが強い証拠であり、祈りをするのは私たちが一人ではない証しです！

もしこれらの真理を理解し、そして私たちの心と知恵を整えられるなら 私たちの人生はもつと意味のある、違ったものに、そしてもつと価値あるものになるでしょう！

皆さんの健康のために祈っています。神様の祝福がすべての人の上にありますように。

「戦争 その悲惨な体験をいしえずとして
私たちは
世界の人々へ訴える
一切の核兵器と
あらゆる戦争をなくし
武器に代えて対話を
そして 愛と信頼で
地球を 平和に満ちたみどりの星にしよう
私たち沖縄県民は
『イチヤリパチョーデー』
を合言葉に
万国津梁の地の建設を希求し
世界の恒久平和を願い
声高らかに 非核・平和

沖縄県を宣言する

那覇教区の皆さん、わたしたちは戦後の全滅状態から立ち上がり、数々の苦難を乗り越え、沖縄の文化、言葉、習慣などをあらわす精神を守りながら、戦後七十五年の道のりを忠実に歩んできました。いまだ多くの取り組みべき課題が残っていますが、不屈の精神で将来に向かって歩み続けるなら、遠くないうちに、正義回復の戦いの終結、不正からの解放を迎えることができ、わが子孫は真の安全と平和な沖縄社会で、幸せな日々を過ごすことができるようになります。

今年私たちは同じ場所で集うことはできませんが、同じ時刻に一つの心をもってすべての戦争の犠牲者のために祈ることはできます。これからも、この同じ一つの心で沖縄の平和が全世界の平和の礎石となることを祈り求め、「うまんちゅぬぬちまむゆるたみに キリストとう うまじゅん 平和ぬ道 あつちやびら」(すべてのいのちを守るため、キリストと共なる平和の道を歩みましょう。)

“Let us Walk the Path of Peace Together with Christ”

By: Bp. Wayne Francis Berndt, O.F.M. Cap.

Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese,

This year, June 23rd, is the 75th Anniversary of the end of the war in Okinawa. Every year on this day, Irei no Hi, we have an early morning Mass at Oroku Church, make a pilgrimage to Mabuni, and then we gather to pray for the victims of war at the Kompaku no To. This year, in order to prevent the spread of the corona virus, we have decided in line with Prefectural Directives, to cancel the early morning Mass at Oroku and the gathering at Kompaku no To. Instead, we have decided to have Masses to pray for the repose of the souls of the victims of war, and to pledge ourselves to work for peace, at all our churches at 11:00 in the morning. At 12:00 after the Mass, we will join all the people of Okinawa in a few moments of silent prayer for the consolation of the spirits of those who have died. After this silent prayer, a video will be shown of Archbishop Takami making an official proclamation of a Peace Message from the Bishops' Conference to mark the 75th Anniversary of the end of the Pacific War.

Pope Francis when he was interviewed during a visit to the Auschwitz Concentration Camp said, “If you turn to war, you are immediately defeated; the only way to overcome war is to never go to war in the first place.” These words of the Holy Father are very well understood by the people of Okinawa. The first half of the Peace Declaration of Okinawa Prefecture states the following:

“War indiscriminately destroys

all life
livelihood
culture
history
nature

The last ground battle of the Pacific War was

fought here on this land, Okinawa
Towns and villages burned
Two hundred thousand lives were decimated
An ancient cultural heritage was lost and the
land was scarred
These wounds have not yet healed”

Saint John Paul II said, “To remember the past is to commit oneself to the future.” To look squarely at what happened during the Battle of Okinawa, is our solemn duty not only towards those who died in the battle, but also it is our duty to our children and grandchildren.

In the second half of the Peace Declaration of Okinawa Prefecture, the people of Okinawa, after stating that their reflections on the war are the foundation of their declaration, made the following statement.

“War, this tragedy as our foundation
We Plead to the people of the world
to abandon all nuclear weapons to stop every
war to replace weapons with dialogue
And through love and trust make Earth a peaceful,
green planet
We, the people of Okinawa under the slogan
"Brothers at First Meeting"
wish to make this land a bridge between nations
In a sincere desire for everlasting world peace
we call out this declaration for a peaceful, nuclear-free
Okinawa Prefecture”

On the 75th anniversary of the end of the Pacific War, let us honor the heartfelt desires of the Okinawan people by working together with them for a peaceful world. In order to protect all life, let us walk the path of peace together with Christ. May God give eternal rest to all the victims of war and may He grant peace and prosperity to everyone in Okinawa and throughout the world.



宣教師であるということ

ダノ・ゼルナ神父

読谷教会 主任司祭



死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によつてあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。イエスはこうように、はつきりと、弟子たちに、彼らの使命を話されたので

教地においては、とても傷つきやすい、弱い者となつて、すべてに順応して行かなければなりません。

第二に、宣教師は福音のために、自分のエゴとプライドを捨てて、犠牲を払い、苦しまなければなりません。

最後に宣教師はイエスの証人とならなければなりません。証人というのは、問題となっている出来事に居合わせて、それを見聞した人です。裁判の法廷で被告が有罪であるか無罪であるかの判断を下す際に重要な役割を果たします。証人の記憶や、証人が信頼できる人であるか否かが最終判決の基礎となります。

宣教師がイエスの証人であるというのは、イエスについて良く知っている人であると言うことです。イエスを知っていることは、イエスについての話しを読んだり、聞いた結果、イエスを知っているということだけではありません。

イエスの福音の証人は、イエスとの関係をつちかっている者でなければならぬのです。イエスはご聖体に現存されるので、イエスの証人はご聖体を深く愛する者でなければなりません。

ばなりません。ご聖体を拝領する人は、ご聖体を拝領すればするほどイエスさまのイメージに近くなります。

私たちの体は私たちが食べるものでつくられると言われますが、私たちはご聖体をいただくことによって、イエスさまに似通つたものになるのです。したがって、イエスの証人である宣教師の資格は、その生活が道徳的に優れたものであることは言うまでもありませんが、それ以上に、ご聖体によつて養われているものであるということです。

私たちは、皆、宣教師となるように招かれています。イエスは洗礼を受けたすべての人が宣教師になることを望んでおられます。洗礼を受けたすべてのクリスチャンは宣教師です。全世界に行き私たちがメシア、イエスの証人となることを命じられているのです。

しかし、すべての人が文字通りに宣教師として海外に出るということは出来ません。それでは、私たち、皆に出来ることは何でしょう。幾つかあげてみましょう。

最初に、私たちは、海外にで、福音をのべ伝えて

いる宣教師のために祈り、犠牲をすることが出来ます。

二つ目は、そのような宣教師がその任務を果たせるように、また、ちゃんと生活できるように、彼らを物質的に、経済的に支援することが出来ます。

三番目に、若い人たちの場合は、可能ならば、実際に宣教師として海外に出ることも考えられます。

最後に、教会で、また、其々の家庭や職場において、学生ならば、学校において私たちの主、イエスの証人となることです。イエスさまは弟子たちが高い所からの力に覆われることを約束されました。それは、イエスの命令に従う人にはいつもイエスさまの力が与えられるということです。

イエスは天に昇られました。イエスは、私たちが生涯を終えてから行くところへ昇られました。そこは、かつてイエスがイエスを信じるすべての人にとつておくと約束してくださった場所です。

私たちが、しっかりと信仰を保つていきますように。また、イエスさまが、いつも私たちと共に居てくださいように祈りましょう。

私は、小さい頃から、いつも宣教師に心を惹かれ、宣教師に憧れていました。宣教師に対する強い憧れと、イエスに従いたいとの思いの結果、私は宣教師になって日本に来ています。

主の昇天の福音は、イエスが弟子に何を命じられたか、いわゆる、弟子の使命が何であるかを告げています。メシアは苦しみを受け、三日目に

す。最初の弟子たちは、イエスから、直接に、地球上のすべての国へ行くことを命じられました。すなわち、かれらは宣教師となることを命じられたのです。

皆さんは、宣教師として、愛する家族から離れ、祖国を出て、見知らぬ国へ行くことが、どのようなことであるかお分かりになるでしょうか？ 先ず、第一に、不慣れな宣

那覇教区における公開ミサ再開のためのガイドライン

1. 新型コロナウイルス感染経路の特徴

- 1) 飛沫感染：せき、くしゃみ、発声、呼吸によって、唾や鼻水の飛沫と共にウィルスが空気中に漂い、それを吸い込むことで起こる感染。
予防方法：マスク着用によって飛沫拡散防止に効果があるが、普通のマスクでは飛沫を吸い込まないようにすることはできない。そこで、ソーシャルディスタンスが必要となり、うがいをすることも大切となる。また、密閉・密集・密接を避け、換気・集まらない・距離を取る・一緒に食事しないことが必要となる。
- 2) 接触感染：感染者の触ったものを介して手指にウィルスが付着し、そのウィルスを口や鼻から取り込むことによって起こる感染。
予防方法：手の触れる所の消毒・共用物を減らす・頻繁な手指消毒・握手をはじめ互いに接触を避け・共に食事をしない。

2. 教会と感染拡大のリスク

- 1) 信じる者の集いである教会：主の名において集い親しく交わることは教会の本質的な一面である。このことは上記の二つの感染経路の特徴にピッタリ合致していて、本質的に教会は感染リスクを抱えていると認めざるを得ない。
- 2) 主の祭壇を囲む教会：私たちが最も大切にしているミサは、主の祭壇を囲みともに過越の食事をするのである。これも上記の二つの感染経路となる最もリスクの高い行為とされ、しかも大勢が集う会食はもっとも避けるべき行為とされている。

3. ミサを継続するためには

1) 三密の回避

- ・密閉を避けるための効果的な換気を行う。今後暑くなるとクーラーを使う場合には特に注意が必要。集う時間を短くすることも効果あり。
- ・密集を避け適正な距離を保つため、ミサの参加人数を制限する。
- ・適正な参加人数を保つため、ミサを複数回行い、参加者を分散する。
- ・参集した人がミサの前後に親しく立ち話するのを注意する。
- ・祭儀は、可能な限り簡素化し、できるだけ時間を短くする。
- ・教会での飲食を避け、行事は出来るだけ控えるか簡素化する。
- ・引き続き主日のミサに与る義務の免除を周知し、不安や恐れのある人は参加者の少ない平日のミサに参加するように勧める。

2) 共同使用物の回避

- ・聖歌集の共用を避け、出来るだけ全員で歌うことを控える。
- ・スイッチ・取っ手などは、決まった人だけが触れるようにする。
- ・カリスに口をつけるのは主司式者のみとする。
- ・避けられない共用物、手すりやドアノブなどは度々消毒する。

3) 司祭の健康管理

- ・司祭の健康管理が最も重要な感染防止のキーポイントとなる。ありとあらゆる防止策をとったとしても司祭が感染し、それに気づくことなくミサを捧げ、聖体を授けるならば参加者をすべて感染させることになる。
- ・可能な限り外出や三密を避け、マスク着用・うがい・手洗い・手指消毒・洗顔・シャワーなどを徹底し、栄養バランスの良い食事・睡眠を大切にし、すべての人の救いのために祈ること、自らのすべてを神と人々に捧げる行為を実行することによって、霊的な喜びを得、また趣味や楽しみを用いてストレスを抱え込まないようにする。
- ・自分の異変に敏感に気付くように注意を払い、体温測定ルーティン化や起床時の鏡チェックなどを実行する。
- ・異変を感じたならば速やかに司教に連絡し、人との接触を避け待機し、自分の身の処し方と小教区ミサについて相談する。

4) 司祭の所作

- ・羊飼いのように羊を守るために責任をもって指示する。ミサの場面だけでなく教会に集ってきた時から信徒が帰途に就くその時まで密集・密接を避けるように注意を促す。
- ・入堂時の聖水の使用を控え、それに代えて消毒液を置く。
- ・聖堂を出入りする人は全員手指消毒をするように指示し、注意を払う。
- ・聖体用のパンとぶどう酒は祭壇側にあらかじめ準備し、奉納しない。
- ・聖堂内で適切な距離を保って座るよう指示するか、その係を置く。
- ・ミサ中は常時マスクを着用し、参列者全員に着用させる。
- ・祭壇の準備前後、聖体拝領の前後に必ず手指消毒を行い、聖体拝領時は信徒全員にも手指消毒をさせる。
- ・聖変化の時以外ではパンとぶどう酒を拭布や Parra で覆う。
- ・聖体奉仕者の奉仕は控える。
- ・侍者も感染予防策を徹底的に実行するように指示し、確認する。離れて立つ・距離を保って歩くなどを含めて。
- ・信徒と協力してこの困難な状況を乗り切るためよく相談し、協力を仰ぎ、必要な役割を任せ、信頼関係をもって対処する。
- ・参加人数を制限する必要に迫られても冷静に対処し、誰も傷付くことのないように協力者を募って、適切な参加人数を保つよう調整を図る。

新型コロナウイルスの収束を世界中の人々が祈っています。日々感染者数や死者数が報道され、医療従事者の緊迫した状況を想像すると、恐怖と不安に陥ります。私にはこのウイルスが、人間のそうした恐怖心や不安を栄養に増殖する妖怪のように思えてしまいます。人に取り付いて、命をも奪うウイルスですが、私たちに何かを訴えているような気がします。

天使のような優しい使いではないけれど、神さまからのメッセージが届いているように思うのです。

ウィルスはすべて、それ



首里教会 東 さよみ

自体が悪というわけではありません。自然を壊し、環境汚染に目を向けなかった私たちへの警告として現れたのかも知れません。邪魔な者、変わり者を排除してきた社会が生み出した脅威なのかもしれません。このウィルスによって、生活が、人生が大きく変えられてしまった人も少なくないことでしょう。私自身も、計画していたことを大きく変えられることになりました。私は昨年十二月、JLMM(日本カトリック信徒宣教師会)の国際ボランティア派遣募集に応

募し、合格の通知をいただきました。そして、今年の四月から東京での研修がスタートする予定でした。

ところが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、東京での研修は一年延期されることになりました。研修に向けて仕事を退職し、家を片付け、荷物まとめて準備し、出発の二週間前になって決まった一年の延期です。海外での活動に向けて意気込んでいた私の落胆は大きく、ただ途方に暮れるばかりでした。

世界に多くの死者が出て、感染の拡大に足止めされた私は、自分の不甲斐なさを思い知るようになりました。

すべては神さまのご計画なのでしょう。そう思えるまでには少しばかりの時間が必要でした。

海外での活動は、それほど甘いものではないと言われているように感じました。昨年の十二月、アフガニスタンで人道支援の活動中に亡くなられた医師の中村哲さんのことを思い起こしました。先生の訃報に接したときは本当にショックでした。

翻って私自身を顧みた時、命がけで働く覚悟と勇気がまだまだ足りないと思いました。神さまのご計画されたJLMMの活動と支援に私を遣わせてくださった意味をこの一年を通してじっくり考えなさいと与えられた時間であるのかもしれない。感染症の拡大も震災も人には予測が付きません。「だから目を覚ましていなさい。あなたたちはその日そのときを知らないからである」(マタイ二十五・13)。私たちにはもうのんびりしている時間はないと思わせるような、新型コロナウイルスの感染拡大は世界的な危機であるように思います。

「み国が来ますように」と祈りながら、神さまを信じて待つ、そして信仰を深めていけたらと思います。今、御ミサも自粛さ

れ、神父さまや信徒の方々にもお会いできず寂しく感じています。私がJLMMの海外派遣候補者に合格した時に、首里のたくさんの方々が応援してくださいました。

沖縄で活躍されている信徒宣教師の先輩、マーシーさんはボランティアで私の英語学習をサポートしてくださっています。多くの方々はこの場をお借りして、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

2020年6・23慰霊の日のお知らせ

主の平和

例年行っている平和巡礼、小祿教会でのミサ、魂魄の塔での祈りの集会は、今年は休止しますが、それに代えて教区内追悼行事として下記の通り計画しましたので、ご理解とご協力をお願いします。

1. 場所：主会場を安里教会聖堂とし、各小教区聖堂にて開催
2. 日時：2020年6月23日 午前11時より同時開式
3. 意向：終戦75周年にあたり全ての戦争犠牲者の追悼および平和希求ミサを心ひとつに捧げる。
4. 司式：主会場はウェイン司教、各会場は主任司教
5. 参加者：・主会場は各小教区代表若干名と安里教会信徒 ・各小教区ではその所属信徒や修道者
6. 黙祷：全県民の黙祷に合わせて12時に黙祷を捧げる。
7. 日本司教団平和メッセージ発表(高見大司教様によるビデオメッセージ)
8. 太平洋戦争の犠牲となった方々の名前や出身地等を事前に各小教区に提出し、その冥福を共に祈る。
9. 注意：感染症対策として教区外からの参加をご遠慮いただき、これまで各小教区で取り組んできた感染拡大防止策を駆使し、三密を避け、安心安全な追悼行事とする。

カトリック那覇教区長
平和委員長 ウェイン・F・バートン司教

2020年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2020年5月12日(火) 10:00～12:00 開催場所：教区センター

1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(4月会議)は休みのため議事録報告はなし。会議に先立ってウェイン司教より、母親の帰天に際して頂いた祈りや励ましへの感謝が述べられ、お姉さんと弟さんから伝えられた母親の様子などが報告された。また、会議の始めに「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」を皆で唱えて会議が始められた。司会はクレーバー神父。
- ・ 司教、司祭、の休暇、会議、研修会等の予定。
ウェイン司教、5月30日～6月1日、宮古教会公式訪問。
- ・ 2020年5月17日に福岡教区長に任命されたヨゼフ・アベイヤ司教の着座式が行われることが報告された。
昨今の情勢に鑑み非公開で行われる。また、引退届けが提出されていた仙台教区の平賀司教の引退も承認され、仙台教区の小松神父が新司教選出まで教区管理者を務めることが報告された。
- ・ ウェイン司教より、教皇大使のチェノットゥ大司教が入院されたのでお祈り下さるよう要請があった。
- ・ 5月14日は教皇フランシスコの呼びかけにより、新型コロナウイルス感染症の収束を願って諸宗教と心を合わせ、「祈りと断食の日」として捧げられるので、多くの呼びかけと参加が要請された。
- ・ 5月23日(土)に予定されていた那覇教区信徒評議会は延期されることが報告された。それに伴い、カテキスタ養成プログラムの募集も延期される。
- ・ 6月1日～5日にかけて行われる予定だった司祭たちのための3教区合同黙想会も、来年に延期されることが報告された。
- ・ 6・23平和巡礼も中止されることが報告され、別な形で取組みができないかを検討中であることが報告された。日本の司教団も戦後75年を迎えて、沖縄で発出するための司教団平和メッセージを用意しており、巡礼に代わる戦争犠牲者慰霊と平和希求のミサを模索していることが報告された。
- ・ 宮古島平良教会の藤澤神父の提案で、聖母月の5月中の夕方5時から新型コロナウイルス感染症の収束を願ってロザリオ1環をそれぞれの場でお祈りしましょうとの提案があり、すでに各小教区に依頼したことが報告された。
- ・ カリタス・ジャパンから新型コロナウイルス感染症で苦しむ人々の為、緊急募金の呼びかけが行われていることが、担当のマーシーさんから報告された。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、国外への郵便物が全面的に送れなくなっていること、国内向けも、定形外は1週間以上かかるということで、「南の光明」の発送にも支障をきたしていることが担当者より報告された。

2. 審議事項

- ・ 2020年教区予定表が新型コロナウイルス感染拡大の影響で変更を余儀なくされているところもあるので、マーシーさんから聞き取りと調整が行われた。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今後の司教訪問の持ち方も当然変わってくると思われる。パーティー等の食事や談笑の機会は控えて、ミサと役員さんたちとの意見交換くらいに規模を縮小することも検討されたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の予防について、教区事務局長の津波古より『公開ミサ再開のためのガイドライン案』が提示説明され、検討された。そして今回の策定に従い、教区一丸となって対策を徹底するよう、司教からも要請がなされた。今回の検討を踏まえたガイドラインについては、教区 HPにも掲載する外、各小教区でも掲示して、信徒の皆さんにも理解を求め、その協力を得て具体策に取組むよう指示がなされた。
- ・ 上記ガイドラインの遵守と各小教区での具体策の実施を条件に、5月24日(日)主の昇天の祭日から主日の公開ミサも再開させることが決定された。今後の主日、平日のミサのあり方は感染症対策の厳格な適用により当然変わってくる。この変化は、行政から出される要請にも留意しながら策定した再開へのルールによるものなので、主任司祭独自の判断で勝手に変更されることは厳に慎んでいただきたい。また、今後の情勢の変化に柔軟に対応するため再び公開ミサの休止も含めた変更がなされる可能性もあるので、即応体制を取っていただきたい。そして、今しばらくミサへの参加を懸念される方々のために、引き続き主日のミサに与る義務の免除を継続することも報告された。

その他

- ・ 各小教区の車の管理について司教から提言がなされた。教区司祭と協力司祭たちが使っている車はそれぞれの小教区が管理すべきものである。車検や修理等のことは各小教区で信徒の協力を得て行ってもらいたい。全て教区事務局に対応を依頼されては困る。
それと関連して「特別定額給付金」をはじめ様々な行政手続きに関しても、各司祭は信徒の協力を得るようにして何でも教区事務局に依頼しないよう、押川司教からも注意が促された。
- ・ ラサール神父様は「あけみおの里」で元気に過ごされていることが、デニス神父から報告された。
- ・ 今年のサマーキャンプは新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏休みの日程が変更されるとのことなので、開催できるかどうかを含め、実行委員会で討議することが担当のヨアキム神父より報告された。
- ・ 次回拡大司祭助祭会議は6月2日(火) 午前10時～12時、教区センター(安里)で行われる。

2020年5月19日

記録：新田 選

承認：ウェイン・フランシス・バートン司教



カリタスジャパン：新型コロナウイルス感染症緊急募金 受付開始

2019年末から世界中で猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、カリタスジャパンでは緊急支援募金を開始しました。WHOによると5月31日までに、全世界で5,934,936人の感染者と367,166人の死者が確認されていますが、世界レベルでの収束までには長期間かかるとの見込みもあり、今後さらに被害が増えることが予想されます。このような中、お寄せいただいた募金は、国内外において、具体的に下記の範囲を重点対象として支援したいと考えています。

1. 住まいの確保：感染から身を守るための家や衛生環境の整わない路上生活者や難民の方々、自粛規制により住む家を失った方々(ネットカフェ住民など)
2. 食糧衣料の確保：雇止めや解雇、倒産などによる生活困窮者への支援
3. 居場所の確保：DVなどにより安心して過ごす居場所のない方々(子どもたち)
4. 滞日外国人のケア：外国人労働者、技能実習生、難民申請者、入管被収容者など
5. 優先される方々へのサポート：高齢者、障がいをもった方々など、生活上のサポートが必要な方々
6. 情報の保証：言語、障がい、独居高齢者、外国人などの理由で情報にアクセスできない方々への情報の提供
7. 医療支援：医療物資が届かない医療機関への支援、風評被害対策など

※必要に応じて支援対象の範囲を変える場合がございます。皆様の募金へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



福岡教区司教の任命発表 着座式日程追加

教皇フランシスコは、2020年4月14日午後7時(ローマ時間同日正午)、福岡教区司教に大阪教区のヨゼフ・アベイヤ補佐司教を任命すると発表しました。発表を受けて、福岡教区では5月17日に、非公開で着座式が行われました。福岡、佐賀、熊本の3県からなる福岡教区は、信者数30,222人、小教区55、巡回教会9、集会所2(2018年12月末日現在)。2019年4月27日の宮原良治司教の辞任から空位となり、杉原寛信神父が使徒座管理者を務めていました。第7代福岡教区司教としてアベイヤ司教が着座されました。

教皇、平賀司教の引退願いを受理

2020年3月18日、教皇フランシスコは仙台教区のマルチノ平賀徹夫司教の引退願いを受理しました。平賀司教は、1945年1月2日生まれ、1974年9月16日、司祭に叙階。2005年12月10日に仙台教区司教に選任、翌06年3月4日に司教に叙階されました。仙台教区は空位になります。小松史朗師が仙台教区の使徒座管理者に任命されました。

カトリック新聞社：緊急事態宣言下の対応について(5月18日更新)

5月18日(月)より、一部業務を再開いたします。当面の間、受付時間は10時～16時となります。なお、しばらくは少人数での対応となり、電話に出られない場合がございますので、引き続き、ファックスまたは弊社ホームページにある【お問い合わせ】フォームもご利用ください。前回お知らせの通り、5月24日付は臨時休刊となります。今後の状況により、予定の変更もございますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

FAX 03-5632-7030 <http://www.cwjpn.com/cwjpn/>



公開ミサ再開のガイドラインを受けて、下記の教会で、主日のミサ時間が変更されています。以下の表をご確認の上、ミサへご参列下さい。

安里教会	土曜日・午後7時(日本語) / 日曜日・午前7時(日本語)、午前9時(日本語)。
小禄教会	日曜日・午前9時(日本語)、午前11時(英語)。
与那原教会	土曜日・午後7時(シスター達のため) / 日曜日・午前8時30分(日本語)、午前10時(日本語)。
真栄原教会	日曜日・午前9時(日本語)、午前10時30分(英語)。
普天間教会	土曜日・午後6時30分(英語) / 日曜日・午前7時30分(日本語)、午前9時30分(日本語)。
コザ教会	日曜日・午前8時30分(日本語)、午前10時30分(英語)。
泡瀬教会	日曜日・午前9時(日本語)、午前11時(日本語)。
真志川教会	土曜日・午後7時(日本語) / 日曜日・午前9時30分(日本語)。
石川教会	土曜日・午後5時(日本語) / 日曜日・午前9時30分(日本語)。
石垣教会	日曜日・午前9時(日本語)、午前10時(日本語)。

※上記以外的小教区の主日のミサは変更ありません。

計 報

◆与那原教会 エリザベット 上原 初 様 2020年 5月 23日 帰天 享年 92歳
 ◆大里教会 モニカ 金城 美代 様 2020年 5月 29日 帰天 享年 91歳



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

お詫び

「4月号のたて軸よこ軸」について

4月号の「たて軸よこ軸」の引用は、英隆一郎師の著書「イエスに出会った女性たち」からの抜粋でした。以前からこの本に心を惹かれ、何度も読み返しながら、心に響いたところ、気になったところなどを書き置いたものを、そのまま「南の光明」に出してしまいました。実は、この文を読んでいただき、私の心の内を紹介しながら、皆様と分かち合いたかったのです。「年を重ねていく時に出来ることをする勇気を持ちたいと思います。」と結ぶつもりでした。著者のお名前も紹介せず、このような引用をしてしまい、大変反省しております。英隆一郎師に心からお詫び申し上げます。お叱りを頂いた読者の皆様にも心からお詫びいたします。ここにいたった未熟さをお許しください。 安里教会 増田麻実



「やすらい企画」 葬祭の

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
 そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
 ☎098-853-1059

